



JUSTE UN CLOU



風味の新次元「香りを纏うカクテル」の登場

近年、世界の各都市で高まるカクテル熱。混ぜることが生む無限大の可能性、ミクソロジーに魅了され、新規食材を取り入れた新たなミックスが日々生まれる中、グラスの内のみならず、外へと意識を広げて生まれたカクテルがある。パリの「ホテル ナショナル デ ザール エ メティエ」のバー「エルバリウム」は、香水ブランド「アニック・グッタール」の協力を得、ハーブやフルーツから抽出・調合した19の食用フレグランスをレシピの一要素とし、仕上げに振りかける。香りを纏うカクテルの登場は、これまでになかった発想が生まれる瞬間にも通じるカクテル新時代の幕開けを思わせる。

Herbarium 243 rue Saint-Martin 75003 Paris ☎ (33) 01 80 97 22 80(ホテル代表番号) カクテル各種€15〜。www.hotelnational.paris/fr

左下／デザイナー、ラファエル・ナヴォが深い森をイメージしてデザインしたというバー空間。暗めの照明に浮か上がる植物が印象的。左上／カウンターに並べられた食用にブレンドされたフレグランスの瓶。香りのテイスティングからカクテルの世界観をイメージし、好みの1杯を探すことも可能。右／カクテルを供す、その瞬間に纏わせる香り。



©Masahiko Takeda / CREA Traveller

素材の特性や物語から見出す新たな可能性

パリ建築学校時代に結成し、今では世界の店舗設計に引く手数多の建築家集団、シグー。友人の住居のリノベーションを始めた当初から、古い倉庫やアトリエに眠る廃材を集め、事務所兼作業場で手作業のものづくりに挑んできた。<長く使われる本物の素材>へのこだわりと意識はこうして育まれ、研ぎ澄まされた。コスメブランド<Aesop>のバリ、チケットン店設計の要は、五寸釘。「鉄素材の美しさ、道具としての形と機能に一目惚れ」したという。本来は打ち込まれて姿を見せぬ五寸釘を前面に出し、棚としての新機能を与えた発想に、脱帽。

Aesop Tiquetonne 29 rue Tiquetonne 75002 Paris ☎ (33) 01 40 26 44 20  
http://cigue.net https://www.aesop.com/jp/r/aesop-tiquetonne?q=Aesop%20Tiquetonne%20&storepage=true&storepage=true

右上／2012年に施工した<Aesop>パリ、チケットン店の内観。装飾を排除し、複数の五寸釘を並列に打ち込んだ棚のみで、壁際に陳列する商品を際立たせる。左／白木の壁に正確に五寸釘を打つ作業。「古民家の店舗改装のために訪れた東京で日本の大工に教えられた」という五寸釘。素材の持ち味と力強さを空間設計のディテールに落とし込み、装飾でなく機能として使う手腕がシグーの魅力。



©Cigalé, Louis Basquiat et photo associés



シグーのメンバー、右から、ギエム・ロナール、ユーゴ・アス、カミュー・ベナール、アルフォンス・サルトゥー。



右／「スイミングプール Alain Capellères, Le Brusc」設計1976年夏。©Martine Franck / Magnum Photos 左上／老朽化した駐車場を壊して建設中のHCB財団。©Cyrille Weiner 左下／生涯の伴侶となるアンリ・カルティエ・ブレッソンと1970年に結婚。夫が捉えたマルティヌ・フランクのポートレート。1976年、ヴェニスにて。©Henri Cartier-Bresson / Magnum Photos



世界の理解を求め、日々の瞬間を捉えた女性写真家展

2003年に開館したパリの「アンリ・カルティエ・ブレッソン財団」は11月6日マレ地区に移転し、再オープンする。こけら落としはブレッソンの妻であり、写真家として活躍したマルティヌ・フランク(1938-2012)の回顧展。ベルギー、アントワープに生まれ、たおやかな感受性と人生への深い理解を求める探究心に導かれ、写真家として世界を巡り、人々の日常の瞬間に煌めく生命の不思議と歓びを捉えた彼女は、同時にそれらを妨げる社会への抗議を続けた。日々の瞬間に潜む真相をあぶり出そうとする、写真の可能性を信じた写真家の作品に触れる、またとない好機。

Fondation Henri Cartier-Bresson 79 rue des Archives 75003 Paris ☎ (33) 01 56 80 27 00 入館料:€9。http://www.henricartierbresson.org